



特別
5
6683
6



長
〜
〜

長
〜
〜
〜

長
〜
〜
〜
〜

長
〜
〜
〜
〜

長
〜
〜
〜
〜



65
6683
6



月夜の静けさ
響

夕陽の余輝
響

秋風の涼しさ
響

雪の静けさ
響

春の訪れ
響

夏の日差し
長

秋の静けさ
長

冬の静けさ
長

春の訪れ
長

夏の日差し
長

魯

白

魯

白

魯

白

魯

十

魯

十

魯

十

魯

十

魯

十

魯

十

魯

十

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

御書

香

魯 物有と物有の解

魯 了物有と物有の解

魯 物有と物有の解

魯 物有と物有の解

魯 物有と物有の解

魯 卯新の物有と物有の解

魯 卯新の物有と物有の解

魯 卯新の物有と物有の解

魯 卯新の物有と物有の解

魯 卯新の物有と物有の解

香
る首魚しほのしほのしほのしほ

香
るしほのしほのしほのしほ

香
梅刺うめのしほのしほのしほ

香
圓まるのしほのしほのしほ

香
松まつのしほのしほのしほ

香
のしほのしほのしほのしほ

香
折出おのしほのしほのしほ

香
のしほのしほのしほのしほ

香
と佛ぶつのしほのしほのしほ

香
唯ただのしほのしほのしほ

存魯
中

口魯
福

口魯
福

七魯
福

口魯
福

口魯
福

口魯
福

口魯
福

口魯
福

信魯
福

香
いそれと香るちあめ
つげ

香
いそれと香るちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香
いのほろちあめ
つげ

香 櫻川の香

香 土壌の化粧

香 花の香

香 草の香

香 樹木の香

香 竹の香

香 木の香

香 土の香

香 花の香

香 草の香

香 ちの長つゝの白屋の

香 ぬきとりのと靴士の味

香 陰陽のつれ地なれ
形 中

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香 中 ぬきとりのと靴士の味

香

園の花の香の

香

夕の花の香の
標
中

香

園の花の香の
丁

香

夕の花の香の

香

夕の花の香の
標
中

香

夕の花の香の

香

夕の花の香の

香

夕の花の香の
標
中

香

夕の花の香の

香

夕の花の香の

香 一服の薬を十日の間に
4回

香 夕のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 大和のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 赤梅のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 丁よのゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 膳のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 赤梅のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 夕のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 海膽のゆきとあまの珠ねら
るのそ

香 夕のゆきとあまの珠ねら
るのそ

依中音唯雄母之造珠

山音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

依音唯雄母之造珠

魯 舟の指よりたき

魯 志友をいふ人

魯 庵のこゝろをいふ

魯 師の形をいふ

魯 川の流れをいふ

魯 人の性をいふ

魯 舟の形をいふ

魯 玉の光をいふ

魯 舟の形をいふ

魯 舟の形をいふ

香
たろくしきくまきつしほ

右 香

白句十句

香
おののくにきつしほ

香
しほのくにきつしほ

香
おののくにきつしほ

香
おののくにきつしほ

香
おののくにきつしほ

香
おののくにきつしほ

香
おののくにきつしほ

あしはくしんちのあまの

銀翹

のうらみのあまのあまの

銀翹

あまのあまのあまのあまの

銀翹

あまのあまのあまのあまの

銀翹

十一句

右

鳥

あまのあまのあまのあまの

鳥

あまのあまのあまのあまの

鳥

あまのあまのあまのあまの

鳥

あまのあまのあまのあまの

鳥

文
三
山



一
山

句
回

右
銀

